

なかなか渡れない ボスポラス海峡

「今日は橋を渡るのに1時間もかかった。毎日の通勤もひと苦労なんだ」

古くからアジアとヨーロッパの文化の境界となってきた、トルコのボスポラス海峡。この海峡に架かる橋では、毎日たくさん車が列を成す。

しかし数年後には、この海底に地下鉄が開通予定。「これで渋滞に悩まされなくてすむ」と人々は喜ぶ。

そんな市民の期待を背負うのが、現在、JICAの円借款を通じて進められているトルコの大プロジェクト「ボスポラス海峡横断地下鉄整備事業」。舞台は同国最大の都市イスタンブール。街を二分している海峡の海底に箱型のトンネルを沈め、2つの大陸をつなぐ13・6キロの地下鉄を建設するというものだ。

「これまで海峡を渡る移動手段は2本の橋と連絡船のみ。慢性的な交通渋滞と排気ガスによる大気汚染が深刻化しています。市民は地下鉄を今か今かと待ち望んでいるのです」とJICAトルコ事務所の本間靖健さんは話す。

潮の流れが激しいボスポラス海峡。この高度な技術を要する工事をリードするのは大成建設株式会社だ。沈埋トンネルとして



上層と下層で流れの向きが変わるボスポラス海峡でのトンネル工事は、高度な建設技術が求められる

は世界最深、地下60メートルを記録する。「数ミリの誤差も許されない、極めて繊細かつダイナミックな事業。大変神経を使う仕事です」と、コンサルティング業務を担う株式会社オリエンタルコンサルタツの石川唯志さんは話す。2013年に開業を控え、トルコの鉄道関係者たちが模索しているのが、地下鉄を運営・維持管理する新体制の設立だ。そこでJICAは、日本の鉄道会社のノウハウを学ぶ研修を実施。開業に向けて検討すべき内容、問題点などを踏まえ、専門家による講義や日本の鉄道視察などを行った。最後にはアクションプランを作成、組織の枠を越えて情報を共有し、帰国後も積極的に議論してもらうことが目的だ。

トルコ from TURKEY



ボスポラス海峡に架かるボスポラス橋。慢性的な交通渋滞に市民は悩まされている

「鉄道人」を育てる JR東日本の研修施設

「生まれー！生まれー！」

10月末、日本列島が大寒波に見舞われた福島県白河市。木枯らしが吹く中、踏切のそばで、制服姿の女性が発煙筒を手に声を張り上げています。ピンと張り詰める空気に包まれ、その様子を見守っているのはトルコから来日したJICAの研修員。運輸省鉄道総局、トルコ国鉄、イスタンブール市、イスタンブール運輸株式会社で働く、まさに「鉄道」のスペシャリストたちだ。

新白河駅から車で約10分、豊かな自然に囲まれたJR東日本総合研修センターは、JR東日本が所有する人材育成施設。運転士、車掌、駅社員、検修・保線社員などが専門分野の基礎を固めるために、数カ月間みっちり研修を受ける。

この日行われていたのは、車掌の卵たちの実習訓練。踏切に乗り車が飛び込み、列車と接触事故を起こしたという設定だ。二次災害



JR東日本総合研修センターでは、施設内に敷設された実習線を使って訓練を行う

を防ぐため、車掌は直ちに対向列車を停止させなければならない。線路に降りて、発炎筒で非常合図を出す訓練生たちを、講師が厳しい眼差しでチェックする。

「緊急事態に冷静かつ的確に対処するためには、身を持って修練することが重要。訓練であっても一瞬の気の緩みも許されません」。そう話す運輸研修部長の佐藤寿さんは、旧国鉄時代から安全管理一筋。「JR東日本も民営化を経て、試行錯誤しながら努力を続けてきました。安全管理に終わりはない。経験に学びながら、常に改善を心掛けていくことが重要です」と訴える。

トルコ国鉄のギュル・アブドウルカディル旅客部長は「トルコ国鉄にはJR東日本のような体系的な研修施設がない。新地下鉄の運営・維持管理に向けて、ぜひ職員を派遣し研修を受けさせたい」と強い関心を示していた。

りんかい線に乗車して 安全性を実感

次の日に研修員が訪れたのは、02年に全線開業した臨海副都心線（通称「りんかい線」。大崎から大井町を経由し、お台場や国際展示場などがある「臨海開発地域」を結ぶ路線だ。「りんかい線もトルコと同様に沈埋トンネルを採用しています。開業に当たり、運

営・維持管理を新組織である「東京臨海高速鉄道株式会社」に引き継いだ点も似ている。一から体制を作っていくノウハウを学んでもらえれば」とJICA中東・欧州部の吉田理沙さんは期待する。

1991年の組織立ち上げから現在に至るまで、一連の法的手続きや人材の配置などについて、りんかい線の職員から詳しく説明を受けた研修員たち。イスタンブール市鉄道網部のエイギン・ヤルチン課長は「日本の鉄道がここまでの安全性を維持しているのには、組織を挙げて、綿密な準備と努力をしてきたからなんです」と感心していた。

「帰国後は新しい運営・維持管理体制の設立に向けて、それぞれが検討・行動していくことが重要」。日本での研修を経て、異なる組織出身の研修員たちは一致団結し、士気を高めていたようだ。

トルコのたくさんの人々の夢と希望を乗せた、ボスポラス海峡の新地下鉄。利用者に安全なサービスを提供するために、トルコの「鉄道人」たちは立ち上がった。



運転士の訓練用のシミュレーターを体験。一人一台、さまざまな環境下の線路での運転をシミュレーションできるようにしており、研修員たちは驚きを見せていた

日本の鉄道に 運営と維持管理を学びたい

アジアとヨーロッパの境界、トルコのボスポラス海峡。この海底で、日本の支援により地下鉄の建設が進められている。今、早急に必要とされているのは、新地下鉄の運営・維持管理体制の設立。10月末、日本の「鉄道人」のノウハウを学ぶためにトルコから研修員が来日した。

りんかい線の八潮車両基地で、車両のメンテナンス方法について説明を受ける研修員たち。技術職の研修員を中心に、次々と質問が投げかけられていた